

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)久喜市立学校給食センター新築	階数	地上2F、地下0F
建設地	埼玉県久喜市	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、指定なし	平均居住人員	80人
地域区分	5地域	年間使用時間	1,800時間/年(想定値)
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2018年3月14日
敷地面積	11,662㎡	作成者	大建設計東京事務所 金田隆彦
建築面積	4,822㎡	確認日	2018年3月14日
延床面積	5,831㎡	確認者	大建設計東京事務所 山岡信弘



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

環境品質 Q

環境負荷 L

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レダ-チャート)

Q2 サービス性能

Q1 室内環境

Q3 室外環境(敷地内)

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

LR3 敷地外環境

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 2.8

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.3

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
久喜市に計画された給食センターである。節水型器具の採用や積極的な緑化計画等により、環境負荷の低減に配慮した建物である。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・天井裏も含めて内装材にF☆☆☆☆を採用。 ・建屋内禁煙を実施。	・耐用年数の長い内装材を採用し、建物の耐用性の向上に配慮している。	・既存樹木を残しつつ、新たな植栽を行うことにより、生物環境の保全と創出に配慮している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・断熱性の高い材料を採用し、建物の熱負荷抑制に配慮している。 ・高効率な設備システムを導入し、エネルギーの効率的利用に配慮している。	・節水器具を積極的に採用し、水資源の保護に配慮している。 ・再利用可能な部材を採用し、非再生性資源の使用量削減に配慮している。	・駐輪場・駐車場の計画は利便性、交通渋滞緩和に配慮している。 ・屋外照明の計画は、周囲への漏れ光に配慮している。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS**  
**(仮称)久喜市立学校給食センター新築工事**

欄に数値またはコメントを記入

使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版、C  
 評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>2.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.33</b>		-	<b>3.0</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.6</b>	0.15		-	<b>3.6</b>
1.1 室内騒音レベル		<b>3.0</b>	0.40		-	
1.2 遮音		<b>4.6</b>	0.40		-	
1 開口部遮音性能	開口部遮音性能:T-2、	<b>5.0</b>	0.60		-	
2 界壁遮音性能	Dr:40、	<b>4.0</b>	0.40		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-		-	
1.3 吸音		<b>3.0</b>	0.20		-	
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.1</b>	0.35		-	<b>2.1</b>
2.1 室温制御		<b>3.2</b>	0.50		-	
1 室温		<b>3.0</b>	0.38		-	
2 外皮性能	断熱性能の高い建築材の採用。	<b>4.0</b>	0.25		-	
3 ソーン別制御性		<b>3.0</b>	0.38		-	
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20		-	
2.3 空調方式		<b>1.0</b>	0.30		-	
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.0</b>	0.25		-	<b>3.0</b>
3.1 昼光利用		<b>3.0</b>	0.30		-	
1 昼光率		<b>3.0</b>	0.60		-	
2 方位別開口			-		-	
3 昼光利用設備		<b>3.0</b>	0.40		-	
3.2 グレア対策		<b>3.0</b>	0.30		-	
1 昼光制御		<b>3.0</b>	1.00		-	
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.15		-	
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.25		-	
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.9</b>	0.25		-	<b>3.9</b>
4.1 発生源対策		<b>4.0</b>	0.50		-	
1 化学汚染物質	天井裏も含めて内装材にF を採用。	<b>4.0</b>	1.00		-	
4.2 換気		<b>3.0</b>	0.30		-	
1 換気量		<b>3.0</b>	0.33		-	
2 自然換気性能	自然換気有効開口面積は床面積の1/15以上を確保。	<b>5.0</b>	0.33		-	
3 取り入れ外気への配慮		<b>1.0</b>	0.33		-	
4.3 運用管理		<b>5.0</b>	0.20		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視			-		-	
2 喫煙の制御	建屋内全館禁煙。	<b>5.0</b>	1.00		-	
<b>Q2 サービス性能</b>			<b>0.30</b>		-	<b>2.9</b>
<b>1 機能性</b>		<b>2.6</b>	0.40		-	<b>2.6</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>2.3</b>	0.40		-	
1 広さ・収納性		<b>1.0</b>	0.33		-	
2 高度情報通信設備対応		<b>3.0</b>	0.33		-	
3 バリアフリー計画		<b>3.0</b>	0.33		-	
1.2 心理性・快適性		<b>2.6</b>	0.30		-	
1 広さ感・景観		<b>3.0</b>	0.33		-	
2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース(執務スペースの1%以上)の確保。	<b>4.0</b>	0.33		-	
3 内装計画		<b>1.0</b>	0.33		-	
1.3 維持管理		<b>3.0</b>	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計		<b>3.0</b>	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保		<b>3.0</b>	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.0</b>	0.30		-	<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.0</b>	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		<b>3.0</b>	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能		<b>3.0</b>	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.0</b>	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数		<b>3.0</b>	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		<b>2.0</b>	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐用年数の長い仕上材の採用。	<b>5.0</b>	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.20		-	
2.4 信頼性		<b>3.2</b>	0.20		-	
1 空調・換気設備		<b>3.0</b>	0.20		-	
2 給排水・衛生設備		<b>2.0</b>	0.20		-	
3 電気設備	非常用発電機、無停電電源装置の採用等。	<b>4.0</b>	0.20		-	
4 機械・配管支持方法	耐震クラスS。	<b>5.0</b>	0.20		-	
5 通信・情報設備		<b>2.0</b>	0.20		-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.3</b>	0.30		-		<b>3.3</b>
3.1 空間のゆとり			<b>3.8</b>	0.30		-		
1 階高のゆとり			<b>3.0</b>	0.60		-		
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率:1.0未満	<b>5.0</b>	0.40		-		
3.2 荷重のゆとり			<b>3.0</b>	0.30		-		
3.3 設備の更新性			<b>3.2</b>	0.40		-		
1 空調配管の更新性			<b>3.0</b>	0.20		-		
2 給排水管の更新性			<b>3.0</b>	0.20		-		
3 電気配線の更新性			<b>3.0</b>	0.10		-		
4 通信配線の更新性		構造部材・仕上材を痛めずに更新、修繕が可能である。	<b>5.0</b>	0.10		-		
5 設備機器の更新性			<b>3.0</b>	0.20		-		
6 バックアップスペースの確保			<b>3.0</b>	0.20		-		
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				<b>0.37</b>		-		<b>2.5</b>
1 生物環境の保全と創出			<b>2.0</b>	0.30		-		<b>2.0</b>
2 まちなみ・景観への配慮			<b>3.0</b>	0.40		-		<b>3.0</b>
3 地域性・アメニティへの配慮			<b>2.5</b>	0.30		-		<b>2.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>2.0</b>	0.50		-		
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>3.0</b>	0.50		-		
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>						-		<b>3.3</b>
<b>LR1 エネルギー</b>				<b>0.40</b>		-		<b>3.4</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制		断熱性能の高い建築材の採用。	<b>5.0</b>	0.05		-		<b>5.0</b>
2 自然エネルギー利用			<b>3.0</b>	0.12		-		<b>3.0</b>
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.76	<b>3.4</b>	0.59		-		<b>3.4</b>
4 効率的運用			<b>3.5</b>	0.24		-		<b>3.5</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.5</b>	1.00		-		
4.1 モニタリング		用途別にエネルギー消費の内訳を把握可能な計画としている。	<b>4.0</b>	0.50		-		
4.2 運用管理体制			<b>3.0</b>	0.50		-		
集合住宅の評価						-		
4.1 モニタリング						-		
4.2 運用管理体制						-		
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				<b>0.30</b>		-		<b>3.4</b>
1 水資源保護			<b>3.4</b>	0.20		-		<b>3.4</b>
1.1 節水		過半に節水器具の採用。	<b>4.0</b>	0.40		-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60		-		
1 雨水利用システム導入の有無			<b>3.0</b>	0.70		-		
2 雑排水等利用システム導入の有無			<b>3.0</b>	0.30		-		
2 非再生性資源の使用量削減			<b>3.4</b>	0.60		-		<b>3.4</b>
2.1 材料使用量の削減			<b>3.0</b>	0.10		-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用			<b>3.0</b>	0.20		-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			<b>3.0</b>	0.20		-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			<b>3.0</b>	0.20		-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材			<b>3.0</b>	0.10		-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上げの分別が容易な構造(LGS下地)、OAフロアの採用。	<b>5.0</b>	0.20		-		
3 汚染物質含有材料の使用回避			<b>3.6</b>	0.20		-		<b>3.6</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用		PRTR法に該当しない建材の採用。	<b>4.0</b>	0.30		-		
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.5</b>	0.70		-		
1 消火剤			-	-		-		
2 発泡剤(断熱材等)		ODP=0、かつGWP<50の断熱材を使用している。	<b>4.0</b>	0.50		-		
3 冷媒			<b>3.0</b>	0.50		-		
<b>LR3 敷地外環境</b>				<b>0.30</b>		-		<b>3.2</b>
1 地球温暖化への配慮		高効率な設備機器の採用によるCO2の削減。	<b>3.6</b>	0.33		-		<b>3.6</b>
2 地域環境への配慮			<b>3.0</b>	0.33		-		<b>3.0</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25		-		
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50		-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.0</b>	0.25		-		
1 雨水排水負荷低減			<b>3.0</b>	0.25		-		
2 汚水処理負荷抑制			<b>3.0</b>	0.25		-		
3 交通負荷抑制		利便性、渋滞緩和に配慮した駐輪場・駐車場計画。	<b>5.0</b>	0.25		-		
4 廃棄物処理負荷抑制			<b>1.0</b>	0.25		-		
3 周辺環境への配慮			<b>3.1</b>	0.33		-		<b>3.1</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40		-		
1 騒音			<b>3.0</b>	1.00		-		
2 振動			-	-		-		
3 悪臭			-	-		-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40		-		
1 風害の抑制			<b>3.0</b>	0.70		-		
2 砂塵の抑制						-		
3 日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.30		-		
3.3 光害の抑制			<b>3.7</b>	0.20		-		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画。	<b>4.0</b>	0.70		-		
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			<b>3.0</b>	0.30		-		

# CASBEE埼玉県

# 重点項目シート

使用評価ソフトウェアバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)久喜市立学校給食センター新築工事	BEE	1.1	BEEランク
------	----------------------	-----	-----	--------

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO <sub>2</sub> の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア		
3.6	+	2.6	=	6.2
重点項目の各スコアの合計点				
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上	

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO<sub>2</sub>の削減</b>		スコア平均	3.6
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.6
< 配慮した内容を記述 > ・高効率な設備機器の採用によるCO <sub>2</sub> の削減。			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	2.6
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2.2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
< 配慮した内容を記述 > ・既存樹木を残しつつ、新たな植栽を行うことにより、生物環境の保全と創出に配慮している。			

: 入力欄